



ゆりこの市議会だより

発行／後藤ゆり子事務所
〒020-0807 盛岡市加賀野1丁目17-3
電話／019-654-2220 FAX／019-654-2231
携帯／090-2366-1036

第46号
2018.冬

盛岡市議会議員《盛友会》後藤百合子だより

ゆりこの盛岡市議会 Q&A

2018(平成30年)
9月12日
一般質問(一問一答)

◆再犯防止計画について

再犯防止推進計画とは、平成29年閣議決定となった、国民が犯罪被害にあわぬよう、5年間で政府が取りくむ初の計画。こんにち再犯率は約49%刑事司法関係者のみのとりくみでは限界、国・地方公共団体・民間協力者が一丸となったとりくみが必要となる。その5の基本方針 ①誰一人のりくむのこさない社会実現 ②切めない指導、支援 ③犯罪者に、社会復帰のため自らの努力 ④社会情勢に応じた施策 ⑤国民の関心、理解をしようせい ⑥7の重点課題と具体的施策 ⑦ ①就労・住居の確保 ②保健医療・福祉サービス利

用の促進 ③学校等と連携した就学支援 ④特性に応じた効果的指導 ⑤民間協力者の活動推進、公報・啓発活動の推進 ⑥地方公共団体の連携強化 ⑦関係機関の人的・物的体制の整備である。

①計画に対する認識

Q 計画を策定の意図は。盛岡市が同計画を立案し、また盛岡市再犯防止計画をさだめる努力義務があるが、それについてはいかがか。

A 市では国の動きにあわせ、犯罪をおこなった人の更生保護にとりくみ再犯を防止し、安全安心な街づくりを目指す。国の計画の内容をふまえて、地方版計画を策定する。

Q ① 先日発生、市内の外食店で、売上金を収奪しようとの、窃盗事件。犯人は再犯者、仙台市で事件をおこし、事業主はその弁済をしたが、生活態度あらたまらず、事件にいたった。再犯は、泥棒、詐欺、薬物等多く、性犯罪は大変多いが、結婚をへておさまる場合もある。実態

はどうか。

A 矯正施設等を退所後は、職業と住居の確保が大事と認識しており、支援が必要。岩手県における再犯者については、27年度、検挙者1,430人、うち再犯が703人、再犯率は49.2%。28年度1,282人、うち680人で53%、29年度1,272人、うち645人で50.7%。

②取りくみの意向

Q 市は国のモデル事業に応募、認定となったが、応募の根拠と、どのような事業をおこなうのか。

A 施設「盛岡少年刑務所」「盛岡少年院」「盛岡少年鑑別所」があることで、取りくむべきと判断。テーマは3つ「高齢者または障害のある者」「犯罪をした者の等の居場所の確保」「犯罪をした者の等の居場所の確保」に取りくむ

③関係機関との連携

Q 保護観察所など、関係機関との連携はどうか。
A 法務省の関係では、盛岡保護観察所、盛

岡地方検察庁、盛岡少年刑務所、盛岡少年院、盛岡少年鑑別所など。民間団体では、盛岡地区保護司会、更生保護女性会、盛岡地区の更生保護協力事業主連絡協議会など。また不動産関係者にも協力願いたい。

④これからの展望

Q どのように進めてゆかか。

A まず11月にシンポジウム的なものをおこなう。計画期間中は毎年、市民を対象に、再犯防止とは何か、PRできるイベントをおこなう。その周知のありかたは検討したい。市としては、これまでやってこなかった領域に踏み込んでゆくことであり、しっかりと取りくみ、再犯防止、犯罪を減らすような成果に結びつけたい。



ゆりのの突撃レポート

【その④】



盛岡市、岩手県ともに取りくむ『盛岡南公園野球場(仮称)』整備事業。県・市共同での初の試み、いま動きだす。

いよいよ着手がなる、盛岡南公園野球場(仮称)、永井地区における、推進計画。その意義と見込まれる効果について、盛岡市市民部・スポーツ推進課、山本英朝課長にお話をうかがいます。

【経緯について】
 □ゆりこ 市民の皆さんからの要望が大きかった新市営球場です。このたび県もまた新県営球場をとの意向で、ならば共同で整備をおこなう運びとなりました。規模も当初、市単独の設定では、収容人員1万人から、2万人規模へ。この経緯をうかがいます。

■山本課長 現市営野球場は、昭和13年に開場し約80年が経過して

おり、施設の老朽化が顕著であり、大会等に使用される機会が減少している。このことから、市は代替施設の整備として、収容人員1万人規模の野球場の建設を検討したところです。

また、県営野球場は、昭和45年に開設し、昭和58年、平成5年に大規模な改修を行ってきたが、老朽化が進んでいることから、市が、県に対して2万人規模の野球場の共同整備について提案を行い、共同整備に向けた検討を進めてきたものです。

□ゆりこ 新市営球場については、現球場の老朽化が一因ですが、さかのぼって、平成4年、旧都南村との合併にあたり、新球場を都南地区に、との要望があり、実現を見る形となったとの見解があります。

■山本課長 所在地についてであります。平成4年の盛岡市と都南村の合併建設計画においては、野球場を都南東部地区へ建設を進めるとの記載もあったが、平成6年に策定された盛岡市体育施設整備基本計画によると、野球場建設地は盛岡南公園が適地とされたところです。その後、平成11年度のインターハイ、平成28年度の岩手国体、岩手大会に向けて野球場以外の施設の整備を行ってきたところです。

野球場については、平成25年に「盛岡市スポーツ推進計画」を策定し、この計画期間内(平成25年度〜34年度)内に整備を行うこととしたものです。

【規模について】
 □ゆりこ 規模については、図1の通りです。どのような構想によるものでしょうか。

■山本課長 野球場の施設規模につきましては、「公認野球規則」で定める施設基準に合致し、プロ野球一軍公式戦の開催に対応した機能で、フィールドサイズは両翼100m、中堅122mとしたところです。現時点で、岩手県内においてこの基準をクリアした野球場はないものです。フィールドは、内外野全面に人

工芝を張り、利用期間の延長と天然芝の養生期間をなくすことにより利用率の向上を目指します。

また、夜間照明は、照度基準を硬式野球の公式戦が開催できる明るさを確保します。

収容人員は、内野12,000人、外野8,000人の計20,000人とするものです。駐車場は、新たに1,000台分を整備し、既存の200台分と併せ、200台とするものです。

屋内練習場は、野球場と別棟とし、内野が入る大きさとし、ランニングコースや野球以外にも多目的に利用できるよう計画します。

【事業費について】
 □ゆりこ 施設事業費、約87億5,000万円、また運営・維持管理費、約23億9,000万円ですが、その積算はどのように

所在地/施設等	概要(主な機能等)
所在地(建設場所)	盛岡市永井7地割16番地2ほか 盛岡南公園内 未開設区域(9.18ha)
野球場	両翼100m、中堅122m、人工芝(フィールド)、夜間照明 収容人数:約20,000人(内野約12,000人、外野約8,000人) スコアボード(全面LED型)
屋内練習場	広さ50m×50m以上、高さ15m以上
駐車場	普通車 約1,000台、大型バス駐車場、身障者専用駐車場
その他	備品、災害用備蓄倉庫、マンホールトイレ等の設置

図1

おこなわれたものでしょう。

■山本課長 平成29年度に実施した「民間活力導入可能性調査」において、収容人員20,000人でプロ野球一軍公式戦の開催に対応した機能をモデルプランとした施設機能及び規模を基本として算出した概算額です。

また、運営・維持管理費については、事業期間を15年間と設定して、現在の県営野球場や市営野球場の指定管理料をベースに概算額を算出したものです。

□ゆりこ 市民の声として、どうせ大規模施設の整備なら、全天候型、ドーム球場をと、要望がありますが。

■山本課長 盛岡市、岩手県の気候等を考慮すると、野球等の競技レベルを向上させるためにはドーム球場が必要ではないかという意見をいただくところですが、莫大な建設費が必要となります。11月5日に発表された北海道北広島市に開業予定の収容人数約35,000人、日本初の閉鎖式屋根を備えた天然芝球場の建設費は、約600億円と算出されています。この球場は、プロ野球日本ハムの新本拠地となるものであり、民間企業が所有するものです。

【資金調達について】

□ゆりこ これら巨費の財源はどうでしょう。資金調達はどのように。国の補助メニューのありかた、民間資金導入などは。

■山本課長 事業費については、民間資金の活用を基本としますが、起債などの条件を比較し、事業実施上有利な組み合わせにより資金調達を行うこととします。

なかでも、古くなった公共施設を集約化・複合化する場合に利用できる「公共施設等適性管理推進事業債」など有利な資金調達に努めます。

(当該地方債を活用した場合、既存の市営野球場と県営野球場を、新野球場の供用開始後5年以内に廃止することが要件となるものです。)

□ゆりこ 市と県の負担割合はどうでしょう。またその根拠はどのよう。

■山本課長 市と県の負担割合の考え方ですが、建設費については概ね「市6・県4」と考えています。この根拠ですが、市は、収容人員1万人規模の施設を単独で整備すると仮定した場合の野球場と屋内練習場の整備費相当額を負担するものです。県は、

収容人員2万人規模の施設の野球場と屋内練習場の整備費用から市が負担する整備費相当額差し引いた額を負担することを基本とします。

運営・維持管理費については、市の主催事業や高校野球岩手県大会、プロ野球一軍公式戦の開催に配慮し、その他の利用については、利用者が公平に利用できるよう利用調整を行うことを考慮し、調整を行い、今後詳細については決定するものです。

□ゆりこ 他市の先進事例をみると、災害時にむけての備蓄倉庫の整備をあわせて行うケースが多くありますが、いかがでしょう。

■山本課長 野球場の整備に併せ、災害時に備えた備蓄倉庫の設置や、「指定緊急避難場所」に指定された場合に対応するマンホールトイレの整備等を想定しています。

また、東日本大震災の時に岩手県が、産業文化センターアピオを支援物資の保管場所にしたように、屋内練習場をその仕様とすることを想定しています。

【参事事例について】

□ゆりこ 先日、行政視察で

一緒した、松山市の「坊ちゃん球場」ですが、大変人気が高く、注目をあつめる球場です。大変立派なものですが、運営にはご苦労が多く、設備投資にたいしての収益は少なく、運営者の方は「一般住宅に、せいたく座敷を設けたようなもの」と評しておられました。盛岡の場合、それらの心配はどうでしょう。

■山本課長 松山市の「坊ちゃん球場」は、四国で最大の3万人を収容する施設規模を誇っています。

プロ野球のヤクルトスワローズが、毎年2試合ほど公式戦を開催していますし、秋季キャンプを実施しています。

また、独立リーグである四国アイランドリーグプラスの愛媛マリンパイレールのホームグラウンドとして使用しています。

球場の施設規模に対する試合数は多いとは言えず、また天然芝を使用しており、養生期間も必要であることから収益性は高いとはいえません。しかし、屋内練習場は、利用率も高く、収益性も高いと伺っています。

□ゆりこ 付属の施設、野球の発展に貢献大である、先人の顕彰施設も立派でした。盛岡の新球場も、

私が要望、提唱してきた先人、久慈次郎、獅子内謹一郎等、はじめ今日の、大谷翔平等、顕彰施設の設置があり、うれしいかぎりです。

■山本課長 規模、展示物等はこれからの検討となりますが、松山市の「坊ちゃん球場」の野球歴史資料館（の・ボールミュージアム）のように、松山市の先人のみならず、愛媛県の先人を紹介していましたが、同様に、盛岡市の先人のみならず、岩手県の先人を紹介できる施設について検討してまいります。

【連携協約と事務の委託について】
□ゆりこ 市と県の、初の共同事業です。については「連携協約」と「事務の委託」が必要と、お聞きします。

■山本課長 本事業計画は、岩手県及び盛岡市が、それぞれ公の施設として条例設置することに伴い、地方自治法に定める「連携契約」を締結し、それぞれの役割分担を明確にするもので、県議会及び市議会それぞれの議決が必要となるものです。

また、共同事業において、民間活力により実施するにあたり、「県市共同所有・市単独発注方式」を採用予定であり、県の事務を市が受託することから、地方自

治法に定める「事務の委託」について締結するもので、県議会及び市議会それぞれの議決が必要となるものです。

【実現にむけてのスケジュール】

□ゆりこ これからのスケジュールにつき、うかがいます。

■山本課長平成30年12月市議会と同県議会において、「連携協約」にかかる議決をいただき締結、31年1月に「盛岡南公園野球場（仮称）整備事業整備基本計画（案）」についてパブリックコメントを実施し、実施方針・業務要求水準書（案）を公表します。3月市議会と同県議会に「事務の委託」にかかる議決をいただき締結、4月に業者選定に係る募集要項を公表し、11月に事業者選定を行います。

32年3月に事業者と本契約を締結し、32年4月から設計・施工に着手し、35年4月供用開始を目差します。

【共同事業の意義】

□ゆりこ 初の共同事業は、意義が大きいと思います。どのようにお考えでしょう。また今後、他分野における展開、その影響など、どのようにお考えでしょう。

■山本課長 今回の事業は、県と市の共同事業による施設整備

であり、スポーツ施設の「県市共同所有」は全国で初の事例です。また、県と市の共同事業を「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）」に基づき事業手法を採用するのも全国で初の事例となるものです。

今後、人口減により公共施設の縮小が必要となる中で、県と市の共同事業は、今後のモデルとなるものであり、スポーツ分野以外でも必要となると考えています。

□ゆりこ 現在の市営野球場は、今後どのように対応をお考えでしょう。

■山本課長 現市営野球場については、「盛岡市スポーツ施設適正配置方針」において、『建替え』「硬式野球大会が開催できる施設」として、計画期間内に建て替えを行い、現施設については、廃止とする。」としている。

また、資金として前述した「公施設等適性管理推進事業債」を活用した場合、既存の市営野球場と県営野球場を、新野球場の供用開始後5年以内に廃止することが要件となるものです。平成35年に供用開始した場合、40年までには廃止しなければな

らないことから、供用開始後の利用状況や、競技団体、市営野球場のある地元町内会等から意見を伺い、対応方針等について検討してまいります。

【最後に】

□ゆりこ 現在の市営球場の整備には、私の祖父・後藤清郎（現在の岩手日報社の創業者。昭和17年から逝去の20年2月まで、翼賛推薦の盛岡市議会議員）が関わっています。昭和11年2月の社説等に、市営球場を現在の場所に整備すべしとの、論陣をはり推奨しました。当時の県・市は左京長根（旧競馬場付近）を想定したものをくつがえすにいたり、その結果、盛岡市の野球スポーツは、大躍進を果たしました。新球場の整備にあたり、これら経緯を検証の上、現球場の今後あるべき姿を検討されたい。

【インフォメーション】

2019年2月17日（日）ご2時よりサンセール盛岡にて市政報告会をおこないます。



市政だより「ゆりこの議会だより」は、政務活動費で作成しています。